

一一一 雜 件 (1) ハOK

ハ11四

タリト認ムル期日並ニ其通知ノ日附等詳細御取調ノ上至部  
御回報相煩度此段申進候也

(附 記II)

大正四年十一月二十一日在米國珍田大使ヨリ石井外務大臣  
宛公第三九二号

日撲開戦ニ閔スル米國ノ中立宣言ニ付キ取囁回

報ノ件

公第三九二号

日撲開戦ニ閔スル米國ノ中立宣言ニ付キ取調方本月二十一日附  
政送第八二一號ヲ以テ御申越相成敬承仍テ本使ハ本月二十一日  
「ハノンシハング」國務長官ニ会見ノ際右ニ閔シ何分ノ義報知  
ヲ得度旨依頼致置候處早速別紙写ノ通り當時ノ事情ヲ記セ  
ル回答書ヲ差越候リ付委細ハ右ニテ御承知相成度此段回答  
申進候 敬具

(元 黒)

Department of State,  
Washington.

December 30, 1915.

My dear Mr. Ambassador:

Referring to our conversation of this morning

Government was justified, upon the receipt of the  
information above set forth, in assuming that a  
state of war existed between Japan and Austria-  
Hungary and in issuing a proclamation of neutrality  
for the guidance of American citizens.

If, however, the diplomatic relations of the two  
countries are regarded by each as temporarily  
suspended, the Department will be glad to take steps  
to have the proclamation of August 27th, 1914,  
withdrawn.

I am, my dear Mr. Ambassador,

Very sincerely yours,

(Signed) Robert Lansing.

His Excellency

Viccount Sutemi Chinda,  
Japanese Ambassador.

「ハ」獨國驅逐艦「ハベ」九十号捕獲一件

メ〇七 十月二十一日 在芝栗松本領事代理ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

獨國驅逐艦ヲ捕獲セル直通報ノ件

一一一 雜 件 (1) ハ〇ナ ハ〇八

ハ11四

in which you made inquiry as to the basis upon  
which the President issued his Proclamation of  
Neutrality of August 27, 1914, in which it is recited  
that "a state of war unhappily exists between Japan  
and Austria-Hungary", I have had the records of  
the Department examined and find that on August  
26, 1914, the Austro-Hungarian Ambassador tele-  
graphed the Department that he had just been  
informed by his Government that the Emperor had  
ordered the commander of the Austrian cruiser  
ELIZABETH at Tsingtau to "take up fight together  
with German navy". The Ambassador added that  
the diplomatic relations between his country and  
Japan were broken off.

On August 27th, the American Ambassador at  
Tokyo telegraphed the Department that the Austro-  
Hungarian Ambassador had informed him that  
relations between his Government and Japan had  
been severed and he had received his passports.  
In view of the fact that Austria was an ally of  
Germany, with which country Japan was at war,  
and of the further fact that Austria was the first  
country to open hostilities, it seems to me the

第五六号

獨逸驅逐艦「ハベ」九十八青島ヲ距ル西南五十哩石血所ニ  
ト我軍艦ノタメニ捕獲セラヘタリ

メ〇八 十月二十一日 在芝栗松本領事代理宛(電報)  
獨逸驅逐艦ニ対スル中國側ノ処置ニ閔スル情報  
報告ノ件

第五九号

十月二十一日 獨逸驅逐艦石血所ニ到着シ艦長以下六拾老名船  
ヲ捨テ上陸シ上海ニ赴カントス如何ナル措置ヲ執ルヘキヤ  
トノ電報日照県知事ヨリ当地道尹ニ達シタルガ道尹ハ右ニ  
閔シ何レ中央政府ノ命令ヲ待テ更ニ何分ノ義申進スル迄軍  
艦及乗組員ハ齊シク武装ヲ解除セシメ再ヒ戰役ニ參加セサ  
ル直通約書ヲ徵シ保護ヲ加ヘ滯在セシメ任意ニ逸走シ得  
サル様監視スヘキ眞訓シタリト諜報者ヨリ内報ニ接セ  
リ

ハ11四

七〇九 十月二十二日 加藤外務大臣ヨリ  
在中国日置公使宛(電報)

獨國驅逐艇ニ対スル中國側ノ処置ニ付同國へ問

訓方訓令ノ件

第五一六号

本大臣宛松本来電第五九号ニ閲シ

貴官ハ支那当局ニ対シ右事實ナルニ於テハ乗組員全部ノ姓名職務竝ニ支那政府ノ本件処置方承知シタキ旨申入レラレ結果電報アリ度シ右参考シテ芝罘ニ転電アリタシ

七一〇 十月二十五日 在中国日置公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

獨國驅逐艇ニ対スル中國側ノ処置ニ付曹汝霖ノ

返答報告ノ件

第七八五号

貴電第五六号(獨驅逐艇S九十号一件)ニ閲シ十月二十三日不取敢高尾ヲシテ曹汝霖ニ質問セシメタルニ艦長以下乗組員全部ハ之ヲ南京ニ送り同地兵營ニ收容シ戰爭終結迄監視スル積リニテ既ニ其命令ヲ發シタリト答ヘタルニ付高尾ハ命令ハ何處ヨリ何處ヘ發シタルヤ又右ハ確定ノ事實ト

ハ我論拠並ニ今後ノ措置振ニ閑スル政府ノ方針本使心得迄ニ電報ヲ請フ公文書郵送ス

七一 一 十月二十六日 加藤外務大臣ヨリ  
在中国日置公使宛(電報)

獨國驅逐艇ニ対スル我処置ノ正當ナル旨中國側

ニ弁駁方訓令ノ件

第五二三号

貴電第七八五号ニ閑シ我方ニ於テハ是レ迄中立地ノ明確ナル区域ヲ認メタル訳ニテモナキ処S九十号ハ我方ノ追撃ヲ逃レントシテ石血所海岸ニ乗上ケタルモノニシテ同艇ニ対スル我方ノ措置ハ交戰權當然ノ結果ニ屬シ何等中立問題ナト起ルヘキ余地ナキ次第ナル旨支那当局ニ弁駁シ置カルル様致度シ

ニモ不充分ナリト認メラルニ付左記ノ諸点ニ閑シ詳細至急御垂示ヲ請フ

(一) 我方ニ於テ中立地帯ノ明瞭ナル区域ヲ認メタル訳ニアラス云々トアルモ曩ニ我方ヨリ交渉ノ結果支那ヲシテ濱県諸城線以東ヲ交戰地域トナスニ同意セラレタルハ動カスヘカラサル事實ナルニ付同線以南ニアル石血所ヲ以テ中立地域外ト断定スルコト果シテ穩當ナリト認メラルルヤ

(二) S九十号我方ノ追撃ヲ逃レントシテ石血所ニ乗上ケタリ云々トアルモ右ハ現実ニ我軍艦ノ追撃ヲ受ケ之ヲ避ケンカ為乗上タルモノニアラスト認メラル所我驅逐艦カS九十号ヲ發見スルニ到リタルヤ渺クトモ其逃走方向ヲ確知シテ追撃シタル結果ナルヤ又ハ單ニ南方ニ遁レタルナラントノ推定ニ基キ搜索ヲ試ミタル結果ナリヤ

(三) S九十号ニ対スル我方ノ措置ハ交戰權當然ノ結果ナリ云々トアルモ我海軍ニ於テ如何ナル措置ヲ執リタルヤハ支那側ノ照会ニ依リ想像シ得ルノミニテ本使ニ於テ未タ曾テ貴方ヨリ何等御通報ニ接シタルコトナシ就テハ我驅逐艦S九十号ヲ發見シタル日時發見後執ラレタル措置殊ニ我國旗ヲ掲揚セル前後ノ關係詳細了知致シタシ

七一二 十月二十七日 在中国日置公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

獨國驅逐艇問題ニ閑シ稟請ノ件

第七八八号

貴電第五二三号余リ簡単ニシテ支那側ニ対スル一応ノ弁駁

一三 雜 件 (三) 七一一 七一二

一三 雜 件 (二) 七一三

七二八

(四) 本件捕獲ノ正当ナルコトヲ主張セントセハ乗上地ヲ以テ中立地域外ナリトナスカ又ハ乗上ヲ以テ我軍艦ノ現実

進撃ノ結果ナリトナスカ二者其一ヲ採ルノ外ナシト認ム

ル所帝国政府ハ両者孰レヲ以テ主張セラル考ナリヤ

本件ハ我ニ於テ飽迄捕獲ヲ主張スルニ於テハ独逸国ヨリ必

然支那ニ向ヒテ猛烈ナル詰責ヲ加フルト共ニ世界ニ向ヒテ

(註)

我措置ノ不当ヲ吹聴シ其結果日露戦役ニ於ケル Reshiteini

事件ノ如ク第三者ヨリモ好マシカラサル風評ヲ招クニ至ル

ヘキ虞アルニ付事一小軍艦ニ関スル問題ニモ之レアリ我

ニ正正堂々主張シ得ヘキ論拠ナキ限り帝国政府ハ潔ク当初

捕獲手順ヲ履ミタル當該艦長ノ措置ヲ否認シ支那ノ中立ヲ

尊重スル態度ニ出デ時ニハ支那ノ面目ヲモ立テ之ヲ他ノ問

題ニ利用スルコト得策ニアラスマヤト思料ス特ニ御一考ヲ仰

ク將又此種ノ問題ニ付テハ諸般ノ関係上支那ニ向ヒテ無理ヲ押シ通スコト已ムヲ得サル場合モアルヘキモ本使ノ心得

迄ニ今後ハ今少シク詳細ノ事情御示シアランコトヲ切望ス

序ヲ以テ申添フ

註 「レシテルニ」事件ニ付テハ日本外交文書第三十七卷

第三十八卷別冊日露戦争Ⅱノ一二七二文書以下参照

七一四 十月二十九日 在中国日置公使(ヨリ)  
加藤外務大臣宛(電報)

獨國驅逐艇乗組員及ディンケルマン処置方ニ付  
中國側ニ日英連合警告ノ件

第七九二号

十月二十八日英國公使ト打合ノ上エス九〇号乗組員及 Dinkelmann 処置方ニ付支那政府ニ向ヒテ聯合警告ヲ与フ

ルコトニ決定シ同日相前後シテ外交總長ヲ往訪セリ本使ハ孫寶琦ニ向ヒテ先ツエス九〇号乗組員ノ始末ニ付尋ネタル

ニ右ハ悉ク之ヲ南京ニ送リ馮國璋ノ手ニテ時局終了迄監視

シ置クコトニ決シ夫々必要ナル命令ヲ發シタルヲ以テ一行

ハ最早到着シタル頃ナラント語リタリ

尋テ外交部ノ公文ニ用キタル安置ナル意味如何ト問ヒタルニ右ハ失張監視ノ意味ナリト答ヘタルニ付本使ヨリ支那側

ニ於テ十分彼等ヲ取締リ苟モ逃走セントスルカ如キコトナキ様此上トモ注意アリタキ旨警告ヲ与フ尚乗組員全部ノ名

簿至急交付方ヲ求メタルニ早速電命ノ上着次第送付スヘシト答ヘタリ

夫ヨリディンケルマン問題ニ移リタルニ孫寶琦ハ同人ノ北京ニ居ルコトハ事実ナルヘシトハ思料スルモ其住所不明ナ

一三 雜 件 (二) 七一四

七一三 十月二十八日 在中国日置公使(ヨリ)  
加藤外務大臣宛(電報)

獨國驅逐艇船体ノ放棄ニ付意見上申ノ件

第七九〇号

往電第七八八号ニ關シ帝国政府ニ於テ今更我駆逐艦長ノ措置ヲ否認スルコト困難ナル事情アルニ於テハ兎三角S九〇

ノ船体ヲ速カニ放棄スル事ニ決定シ同時ニ支那側ニ対シテハS九十八我追撃ヲ免レンカ為石血所ニ乗セ上ケタルモノ

ニ付我軍艦ニ於テ一時之レヲ押収シタルハ素ヨリ適法ノ措置ナルモS九十八船体破壊シ乗組員逃走シ既ニ全然戰闘力ヲ失ヒ居ルニ付我ニ於テモ今回之レヲ放棄スル事ニ決定シタル旨通告シ若シ其上ニテ支那側ヨリ尚ホ地域問題ニ付云

為スル場合ニハ口頭ヲ以テ我駆逐艦カ当初S九十ヲ発見シタル際ニハ石血所ノ交戦区域外ナルコト確知セサリシモ

其後取調ノ結果同地ノ交戦区域外ナルコト判明スルニ至レル旨言明スルト共ニ既ニ我方ニ於テS九十放棄ニ決シタル

事ナレハ此上地域問題等ニ付論議セサルコト可然旨説明スル事ニ致度シ御参考迄電稟ス將又S九十乗組員ニ關スル件ニ付テハ英國公使ト協議ノ結果廿八日午后共同シテ支那政

府ニ警告ヲ与フル筈

ニ復セシメサル限り我方ニ於テハ暫ク同人ノ拳動ヲ注視スルニ止メ可然カト思料ス尚今朝英國公使來訪昨日孫總長ニ對スル談判ノ経過ヲ報告シタルカ右ハ前条ト全ク一致シ居レリ將又同公使ニ於テモ支那政府カ「デインケルマン」ヲ再ヒ復職セシムルカ如キコト断シテナカルヘシト信スル旨ヲ語レリ

七一五 十月二十九日 加藤外務大臣ヨリ  
在中国日置公使宛 (電報)

獨國驅逐艇ニ關シ中國側ニ對スル回答振ニ付回

訓ノ件

第五二六号

貴電第七九〇号ニ閔シ十月二十八日陸公使ヨリモ同様ノ覺書ヲ提出シタルカ當方ニテハ此種問題ニ付御来示ノ如ク詳細ニ亘リ彼是法律的議論ヲ闘シテ弁明ヲ試ムル趣意ニ非ナルニ付往電第五二二号訓令ノ趣旨ニテ支那側へ回答シ置カルレハ夫レニテ十分ナルヘシ

尚貴電第七八八号ニ濰県諸城線以東ヲ交戦地域トナスヲ我方ニテ同意シタルハ動カス可ラサル事実云々トノ旨御申述アリタル処当初我ヨリ交戦地域ノ協定ヲ申入レタルハ作戰

七一六 十月三十日 在中國日置公使ヨリ  
加藤外務大臣宛

獨國驅逐艇捕獲ニ關スル中國側抗議ノ件

公信第四七八号 (機密)

(十一月五日受)

曩ニ往電第七八五号ヲ以テ及報告置タル本件外交總長公文  
写別紙ノ通郵送供貴覽候也

是爲至要并希見復須至照會者  
右照會

大日本國欽命駐華全權公使日置

中華民國三年十月二十四日

(右和訳文)

書翰ヲ以テ啓上致候陳者獨國軍艦カ日照海岸ニ逃ヶ至リン  
件ニ付キ近頃山東ヨリノ電報ニ拠ルニ已ニ中立ノ処分法ニ  
照シ其武装ヲ解除セシメ並ニ已ニ独兵ヲ兗州鎮守使ニ送交  
シ南京ニ転送シテ之ヲ留置シタルカ二十日朝日本驅逐艦ハ  
シ南京ニ到リ強ヒテ日旗ヲ懸ケ彼ノ捕獲物ニ係レハ明朝出帆  
シ仍ホ次回ニ來テ該艦ヲ拉キ行クヘシト云ヒタル由又電報  
ニ拠ルニ二十一日日艦二艘続來セリ等ノ趣キ按スルニ日照  
海岸ニ於ケル独艦ハ已ニ中立領海ニ逃ヶ至レルモノナレハ  
本国ヨリ中立條規ニ照シテ之ヲ处置スヘシ何ヲ之ヲ捕獲物  
ト謂フヲ得ンヤ

日本軍艦カ擅ニ中立領海ニ入り交戦國船艦ノ処分ヲ強行ス  
ルコトハ實ニ中國ノ中立破壞ニ属セリ統來セル日艦カ若シ  
武装ヲ解除セサルモ亦中立違犯ニ係レリ依テ貴公使ニ向テ  
弁駁致候ニ付キ電報ヲ以テ貴國政府ニ転申シ速ニ海軍官員  
貴公使辯駁即希查照轉電

貴國政府迅飭海軍官員按照國際公法辦理以期尊重中國中立

上必要ナル地点ヲ中立地ヨリ除外セシムル趣意ナリゾラ以  
テ予メ明確ナル境界ヲ指定シ難キニ付先ツ黃河以南トナス  
コトヲ請求シタルモ支那側ニ於テ応諾ヲ難シトスル模様ナ  
リシニ依リ更ニ曰ムヲ得サレハ濰県諸城線以東ト定メテ差  
支ナキ旨ヲ申入レ支那側ノ承諾ヲ得タル次第ニシテ極メ  
テ漠タル限界ナルハ本件本来ノ性質上當然ノコトナリ右ノ  
趣旨ハ支那側ニ於テモ十分了解シ居ルハ貴電第六四九号ノ  
二曹外交次長ノ説明ニヨリテモ明白ニシテ右協定ハ明確ナ  
ル境界線ノ劃定ヲ為シタルモノノ如ク解スヘキ筋合ニ非ル  
ニ付念ノ為申添ニ尤モ問題ノ独逸驅逐艦ハ我海軍ニ於テ現  
状ノママ放棄スルコトニ決定シ最早手ヲ触レサル筈ニ付其  
旨支那政府ニ申入レラレ差支ナシ尚貴電第七八八号ハ本大  
臣ニ付シ詰問ヲ加ヘラルモノノ如ク甚タ其体ヲ得サルモ  
ノト認メラル御意見ノ御開陳ハ差支ナキモ右ノ如キハ向後  
充分御注意アラン事ヲ望ム

註 日置公使發加藤外務大臣宛電報第六四九号ノ二トハ同  
電後段「更ニ小幡ハ右宣言ニハ云々」以下ヲ指ス (前  
掲三九八文書参照)

一三 雜 件 (二) 七一七 七一八

七三二

ニ命令シ國際公法ニ照シテ之ヲ處理シ以テ中國中立ノ尊重ヲ期セラルコト繁要ニ有之候並ニ御回答ヲ煩シ度此段御照会申進候 敬具

照会申進候 敬具

第七九四号

ネテ請訓ノ件

七一七 十月三十日 在南京高橋領事代理ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

獨驅逐艇「エス」九十号乗組員ニ對スル中國側  
ノ処置ニ付報告ノ件

第三八号

往電第三七号ニ閑シ交渉員ニ付確メタルニ一行ハ將校下士卒ヲ併セテ六十一名ヲ臨城ヨリ津浦鉄道ニテ二十九日夕刻当地著直ニ予定ノ宿舎(若シ之レナシトセハ省議会ノ傍)西軍警察署ノ許ニ支那ノ費用ヲ以テ引続キ當地ニ抑留スヘシト又當地独逸國領事ハ支那側ニ対シ頻リニ上海ニ輸送セシコトヲ要求シタルモ中央政府ヨリ當地ニ抑留スヘキコトヲ命セラレタリトノ故ヲ以テ之ヲ拒絶シタリト

貴電第五二六号ニ閑シS九十号問題ニ付往電第七八八号ヲ以テ所信ヲ開陳シタル所閣下ヨリ御戒飭ヲ受ケ甚タ恐縮ニ存スル次第ナルモ貴電ニ依リ中立除外地域ニ閑シ貴我間ニ著シキ見解ノ差異アルコトヲ發見シタルハ本使ノ頗ル遺憾トスル所ナリ御承知ノ通り中立除外地域ニ就テハ当初我方ヨリ黃河以南ヲ提議シタルニ対シ支那政府ニ於テ到底之ニ応スル模様ナカリシ為結局灘県諸城線以東ニ改メ種々論議ノ末漸ク承諾セシメタル次第ナル所支那政府ハ尚独逸側ニ對スル思惑等ヨリシテ勝手ニ往電第六四九号所載ノ如キ甚シク狹少且漠然タル地域ヲ公表シ實際ニ於テハ我方トノ約束上依然灘県諸城線以東ヲ中立除外地域トナスコトニ取計ヒタルモノナリ

曹汝霖ノ所謂漠然タル地域トハ右支那側ノ勝手ニ定メタル地域ヲ指スモノニシテ支那側ニ於テハ断シテ灘県諸城線ヲ以テ漠然タル境界トハ思料シ居ラス本使ニ於テモ所交渉ノ

貴電第五四三号ニ閑シ十一月五日本使曹汝霖ニ面会ノ節(孫寶琦病氣引籠中)回答書ヲ手交シタルニ曹汝霖ハ帝國政府ノ措置ニ対シ満足ノ意ヲ表シ之ニテ本件解決ト看做スヘシト述ヘタリ

七二〇 十一月五日 在中国日置公使ヨリ  
加藤外務大臣宛

獨國驅逐艇問題ニ閑シ中國外交總長宛回答ノ件  
附屬書 十一月四日付日置公使ヨリ孫外交總長宛回答  
公文写

機密公信第四八九号 (十一月十一日接受)

S九十号問題ニ閑スル支那側抗議ニ対シ回答方貴電第五四三号ヲ以テ御申越シノ趣敬承右ハ往電第八〇一号ヲ以テ報告致置タル通別紙写シノ如ク公文ヲ以テ孫外交總長ヘ及回答置候条左様御承知相成度此段申進候也

成行ニ照ラシ左様確信シテ疑ハサル所ナリ去リナカラ貴電第五二二号ノ如ク説明スヘシトノ御命令ナルニ於テハ本使ハ素ヨリ御訓令ヲ遵奉スルノ外ナキモ之力為支那側ニ論難ノロ実ヲ与フル不利益ト支那當局ニ対スル本使ノ苦境トニ就テハ篤ト御考慮ヲ煩ハシタシ又我軍艦ガS九十号ヲ追撃シタル實際ノ情況ニ閑シテハ未タ日本側ヨリ何等報道ニ接シ居ラサル所我軍艦カ十月二十日同号乗上ヶ地点ニ到着シ

我國旗ヲ掲ケタルコト支那側照會ノ通ナリトセハ其後我軍艦ノ執リタル措置振ノ大要本使ノ心得迄ニ御垂示ヲ請フ又本使ニ於テハ折角御訓令ノ次第ハアルモ此際中立除外地域問題ニ触ルルコトヲ避ケ支那側ニ対シテハ我軍艦ノS九号ヲ追撃シタルハ交戦上ノ必要ニ出テタルモノナルモ同号カ既ニ戰闘力ヲ失ヒ居ルコトヲ確メタルニ付之ヲ放棄スルコトニ決定スル旨(往電第七九〇号ト御対照ヲ請フ)回答スル方可然ト存スルニ付今一應御詮議ヲ仰ク

七一九 十一月五日 在中国日置公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

獨國驅逐艇ニ閑シ我回答書曹汝霖ニ手交ノ件

第八〇一号

十一月四日付日置駐支公使ヨリ孫外交總長宛回答公文写

第一六六号

以書翰致啓上候陳者貴曆民國三年十月廿四日附雲字第百拾

七一八 十一月一日 在中國日置公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

獨國驅逐艇ニ閑シ中國側ニ対スル回答振ニ付累

一三 雜 件 (二) 七一九 七一〇

七三三

一三 雜 件 (二) 七二一 七二二

(別紙)

七三四

号貴翰ヲ以テ曩ニ日照県海岸ニ逃至セル独逸国駆逐艦S九  
十号乗組員ノ件並ニ該駆逐艦ニ対スル帝国軍艦ノ措置振ニ  
関シ屢々御照会ノ趣闘悉致シ候右直ニ帝国政府へ電達致シ  
候處帝国政府ヨリハ独逸国駆逐艦S九十号ハ曩キニ我海軍  
ノ封鎖ヲ破リ膠州湾ヲ脱出セルヲ以テ我艦隊ニ於テ之ヲ追  
撃スル為メ艦艇ヲ分遣シタルニ同号ハ既ニ石血所附近ノ海  
岸ニ擋坐シ戰鬪力ヲ失ヒ居ルコトヲ確メタルニ付間モナク  
之ヲ放棄シタル趣貴國政府へ回答スヘキ旨回訓ニ接シ候間  
左様御承知相成度此段照覆得貴意候 敬具

十月二十六日付中国羅交涉員ヨリノ抗議書写  
候處帝国政府ヨリハ獨逸國駆逐艦S九十号ハ曩キニ我海軍

ノ封鎖ヲ破リ膠州灣ヲ脱出セルヲ以テ我艦隊ニ於テ之ヲ追

撃スル為メ艦艇ヲ分遣シタルニ同号ハ既ニ石血所附近ノ海

岸ニ擋坐シ戰鬪力ヲ失ヒ居ルコトヲ確メタルニ付間モナク

之ヲ放棄シタル趣貴國政府へ回答スヘキ旨回訓ニ接シ候間

左様御承知相成度此段照覆得貴意候 敬具

七二一 十一月六日 在濟南船津書記官ヨリ  
加藤外務大臣宛

中国政府ヨリ山東日照沖ノ我軍艦立退方申越

ノ件

公信第一号機密

(十一月十六日接受)

十月二十一日山東日照沖ニ我軍艦侵航シタルハ中立違反ナ  
ルヲ以テ至急立退方別紙写ノ通り今回羅交涉員ヨリ抗議ニ  
接シ候間御查閱ノ上可然御取計相成度此段及報告候 敬具  
本信写送付先在支公使 天津總領事

巡按使函開據膠東道尹電稱本月二十日早  
貴國驅逐艦到日照海口強卸德艦機炮件懸掛日旗經水警向  
阻無效並據稱係伊捕獲物二十一日該處又續到  
貴國軍艦二艘等情飭即與  
貴參贊議辦等因查日照在劃定戰區以外爲完全中立地方此次  
速予見復爲盼專此順頒  
貴國軍艦先後駛入寔屬侵礙中立應請  
貴參贊迅電該艦刻日退出以重條規而荷公法並祈將辦理情形  
速予見復爲盼專此順頒  
臺祺

十月二十六日

羅昌公啓

七二二 十一月九日 在中國日置公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

獨驅逐艦ノ乗員名簿ヲ中國側ヨリ送付越ノ件

第八〇八号

貴電第五一六号ニ閔シ引続キ外交部へ督促ノ結果十一月八

日同部ヨリ全員名簿ヲ送リ越セルモ總テ漢字ニテ姓名ヲ記  
載シアルニ付独逸文ニテ承知シタキ旨ヲ求メ同部ヨリ重ネ  
テ南京へ電訓セリ入手次第送附スヘン尙前記ノ表ニ依レハ  
全員六十四名ニシテ内訳左ノ通り

將 校 四名

水雷技士 三名

相 当 官 二名

下 士 十六名

水 雷 兵 十三名

水 兵 十一名

機 閥 兵 十二名

無線電信兵 二名

木 工 一名

ナリ

三、日本軍艦葫蘆島寄港一件

七二三 七月十六日 小池政務局長ヨリ  
秋山海軍軍務局長宛

日本軍艦葫蘆島寄港ニ閔シ相問合ノ件

附屬書 七月十四日付在本邦中國公使覺書訛文

帝国軍艦葫蘆島寄港ノ件ニ閔シ昨十五日支那公使來省松井

一三 雜 件 (三) 七二三

(附屬書)  
七月十四日付在本邦中國公使覺書訛文  
七月十四日付接收ノ外交部ノ來電ニ曰ク奉天將軍ヨリ転達  
セル葫蘆島洪連長ノ電報ニ拠ルニ日本軍艦四隻十日晚葫蘆  
島ニ到リ上陸セントシタルモ許可セサリシニ更ニ上坎子ノ  
塩場ニ航行シタル後再ヒ葫蘆島ニ引返ヘン強ヒテ上陸セン  
ト欲シ幾ント衝突セントセシカ日本領事ニ交渉シテ翌日午  
後六時ニ至リ始テ退ケリト按スルニ日本軍艦ハ許可ヲ経ス  
シテ強ヒテ上陸セント欲セリ若シ言語ノ不通ニ因テ軍民ノ  
誤会ヲ引起スコトアラハ誰レカ其咎ニ任センヤ希クハ日本  
政府ヨリ艦隊ニ転命シ嗣後ハ此ノ如キ行動ナカラソコトヲ  
望ム外交部十四日

註 右訛文ハ日本外務省作成

日本軍艦葫蘆島寄港ノ件ニ閔シ昨十五日支那公使來省松井

一三 雜 件 (三) 七二三

七三五